

5月9日(月)

空っぼ

聖書朗読 ルカ 24:1~12

しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせられました。この方が死につながれていることなど、あり得ないからです。 使徒 2:24

「空っぼは良いこと。」そう思う人はあまりいないかもしれません。普通は「空っぼ」は「無」でしかなく、例えば、車のガソリンが無くなったときのエンジン音、暑い日に飲んでいて冷たい飲み物が底をついてストローを吸った時の音、あるいは、最後まで家に残っていた子どもが出ていき、巣が空になったときの静まり返った音など、誰が好むでしょうか。そのような人はいないでしょう。

あの日曜日の朝早く、女性たちはイエス様のお墓へと向かいました。そのからだと香油を塗ろうと出かけて行きましたが、お墓に着いてみると、お墓の入り口を塞いでいた大きな石は転がされイエス様のからだはなくなっていました。彼女たちは途方にくれ、恐ろしくなりました。まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が彼女たちの近くに現れた時にはいっそう恐れおののいたことでしょう。けれども、み使いたちが「ここにはおられません。よみがえられたのです。」と彼女たちに言うと、そのぽっかりと穴の開いた心は希望で満たされました。彼女たちはイエス様が「お話しになったことを思い出した」のです。

その後間もなく、失意と絶望にあって心が空っぼになっていた「11弟子とその他の人たち」は、空になったお墓のことを聞き、そして、よみがえられたイエス様にお会いしたとき、心は溢れるほど満たされました。「空っぼ・無」であることがこれほど意味をなすことはありません。「空っぼ・無」が、彼らとそして私たちすべてを変えることとなったのです。

讃美歌 154

祈り お父様。あの空となったお墓によって、今日私たちの心が表現し難いほどの喜びで満たされていることを感謝します。

よみがえられたイエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ベン・メレネス

テキサス州 アマレロ

今日の方

2022年5月9日～5月15日

翻訳 藤岡 伸子

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

5月10日(火)

すべてを明け渡す

聖書朗読 ヨハネ 3：13～18

誰でもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分自身の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。
ルカ 9：23

自己中心的な生き方をする現代社会において、自己を捨て自分の十字架を負った生き方など、愚かで想像も出来ない事と思われるでしょう。けれども、そのような生き方をしなければその結果は、マタイ25章41節に「私から離れて…」とあるように、創造主との純粋な交わりを持ちたいと願う者にとって望ましくないものとなります。ですから、私たちは自分を捨て、自身の十字架を負うことを恐れてはなりません。何より、十字架にあって、私たちは天の父と共にある永遠の命が与えられています。たとえ困難にあっても霊的な喜びがあります。この不完全な世にあっても、完全、平和そして調和を見出すことが出来るのです。

私たちがイエス様の似姿に近づきたいと願うなら、様々な場面において明け渡すことが何より成すべき務めです。神様を私たちの中心として受け入れるのか、それとも、神ご自身とその知恵、そして、私たちの最善を神様が知っておられることを否定するのかでは、違いが生じます。自分自身の十字架を負うとき、私たちは山から谷へ降りて謙虚になり、主のために逆境や喪失に耐えることが求められます。主に明け渡すには、神様に自分自身を完全に捧げなければなりません。神様はひとり子の形をとって、私たちにご自身を完全に無条件で捧げてくださったということを覚えておいてください。私たちが主に自分を明け渡すとき、私たちの生き方は他の何よりもイエス様を愛する生き方となります。

讃美歌 365

祈り 恵み深い愛なる神様。日々あなた様に明け渡すことによって、イエス様にある私たちの信仰といのちが満たされると実感させてください。イエス様は私たちの救い主また友であり、私たちを導いてくださるお方です。

そのお方のお名前によって祈ります。アーメン。

ジェームズ・ウッドロー

カリフォルニア州 レドンド・ビーチ

5月11日(水)

全能のお方

聖書朗読 ヨハネ 8：2～11

婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。
ヨハネ 8：10

仕事の面接試験を受ける際、控室で待っているときの心情は、多くの人が想像できるものではないでしょうか。「私に適性があるだろうか。」「それとも私にはこの仕事以上にもっと能力があるのではないか。」「このポジションにもっと適した候補者が他にいないだろうか。」このようなことを考えながら待っているのではないのでしょうか。あるいは、自身の過去の過ちや罪について心が責められるようなとき、それがどのようなものか誰でも知っているのではないのでしょうか。こうした後ろ向きな姿勢、あるいはこころを惑わせる思いはすべて、私たちの目を、神様が創造してくださった私たちの姿から逸らすことになりかねません。

主に召された私たちは、主の助けによってこうした心の内にある自責の念を払拭することが出来るのです。姦淫の罪で捉えられた女性は、処罰のためイエス様の元へ連れて来られましたが、イエス様は、彼女を罪ある者とせよと騒ぎ立てるあらゆる声と彼女自身の心の声を打ち消されました。後悔の念、過ちを犯してしまったという思い、自己肯定感の喪失、自尊心、他者との比較、そして、今後立ち直れないだろうといった様々な彼女の思いはかき消されました。イエス様は、人前で恥ずかしい思いをしていたひとりの女性を受け入れ、彼女を責め得るすべてを排除しました。

あなたはこれまでにどのような自責の念、心を惑わす思いに縛られてきたでしょうか。それらをすべてイエス様に明け渡し、取り除いていただきましょう。あなたは自分を支配しようとするいかなるものにも負けない者であることを知っています。なぜなら、あなたが心に抱く自分を責めるものはすべて鎮められたからです。神様があらゆる恐れを打ち砕いてくださることを信じましょう。

讃美歌 296

祈り 主よ、あなた様が私たちをお赦しくださったということを受け入れさせてください。あなた様の救いの力を認め、私たちに疑いと恐れを抱かせるような偽りや不当、責め立てるものに屈しない強さをお与えください。あなた様はすべてに優るお方です。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

コリサ・スレン

ジョージア州 アトランタ

5月12日(木)

群衆の声

聖書朗読 ヨハネ 12:12~19

ホサナ。祝福あれ。主の名によって来られる方に。イスラエルの王に。

ヨハネ 12:13

エルサレムは過ぎ越しの祭りのため人で溢れていました。そこに集まっていた群衆は、イエス様がエルサレムに入城される姿を一目見たいと切望していました。イエス様は、メシアの象徴であった子ろばに乗って来られ(ゼカリヤ9:9)、その時群衆は「ホサナ」と叫び声をあげました。

けれども、こうした叫び声とは全く正反対の「十字架につけよ。」という群衆の声をイエス様が聞くこととなったのは、ほんの数日後のことです。イエス様は、ユダに裏切られ、ご自身に敵対する者たちが群衆を煽り、形式だけの裁判に掛けられ、鞭うたれ、そして十字架に掛けられました。数週間の後、また別の人々の群衆は十字架の出来事に心が張り裂け、次に何をすべきか必死に探ろうとしました(使徒2章)。

イエス様を王としたとき、群衆は正しい判断をしました。しかし、死に値することなど何一つなさっておられないイエス様を十字架に掛けたとき、群衆は誤っていました。第三の人々の群衆、すなわち、自分の成すべき事を神様に問う者たちの姿勢は、常に正しいものです。あなたも神様に「次は何をすべきでしょうか」と尋ねてみてください。神様は忠実にあなたを導き、進むべき方向を示してください。

讃美歌 130

祈り 親愛なる主よ。すべてに優るあなた様の御声を求めさせてください。そして、たとえ群衆が異を唱えても、あなた様の導きに従わせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州 コロンビア

5月13日(金)

ちっぽけな想像力を手放す

聖書朗読 ヨハネ 12:23~33

被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。

ローマ 8:19

よみがえりとは新たないのちです。単なるより良い人生、「最高の人生」といったレベルのものではありません。すべてが新たにされるのです。それは私たちの想像を超えたもので、信じ難いことかもしれません。

イエス様の弟子たちにとって、やがて与えられる「新たないのち」を想像するのは難しいことでした。彼らは極めて小さな変化、恐らく政治権力における変化のようなものを期待していました。イエス様が嵐の中で荒海を鎮められたとき、彼らは非常に驚き当惑しました。イエス様は彼らの想像力が欠けていることについて「薄い信仰」と呼んでおられます。

イエス様のご使命、愛、犠牲について、私たちは極めて限られた想像力でしか捉えることはできません。それらは私たちの想像力をはるかに超えるものです。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一つのみであり、新しい命となることはできません。小さなままで、いずれ干からびて、粉々になり消え去ってしまうでしょう。私はしばしば、いのちの種を大切に手放さずに持っていたい、失いたくないと思います。私にはその種がいずれ美しく成長することなど想像できません。

もし自分の思い描くもの、神様にさせていただきたいと願うことを傍らに置いたら、私は小さな種程度の願いを手放すことが出来るでしょう。死ぬこと、それは今も将来も出来ないと言われるかもしれませんが、それこそ変化のために求められているものではないでしょうか。自分のちっぽけな想像力を捨て去ることを告白し、自分の計画をすべて手放してみましよう。イエス様によみがえらせていただきましよう。信仰は新たにされるでしょう。

讃美歌 285

祈り お父様。自分がいかに能力の無い者であるかを私に認めさせ、あなた様の偉大な御力にお任せすることが出来るようにしてください。私を立ち上がらせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ディビッド・レムリー

カリフォルニア州 マリブ

5月14日(土)

私をしもべに

聖書朗読 ヨハネ 13:11

それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。

I ペテロ 4:10

次のお話を皆さんもご存知でしょう。イエス様の弟子たちが、天の御国で誰が一番偉いのか議論していたところ、イエス様は、最も大切なのは誰が偉いかではなく自分を低くすることだとおっしゃいました。イエス様は、水の入ったらいと手拭いを取り、通常は仕える者がなす仕事をしてくださいました。私たちの救い主は弟子たちの汚れた足を洗われたのです。このような行為は、あまり魅力的と思われる事ではないかもしれませんが、とても大切なことです。イエス様は、このことを通して、他者に仕え、必要とされるものが何かを見て、それを満たすことを私たちに求めておられます。

私たちが人に仕えるといった場合、足を洗うことではないかと思いますが、例えば、パンクしたタイヤの交換、誰かの家の片づけ、庭の芝刈り、困窮している人の支払いの肩代わり、食事の用意、医者に誰かを車で連れて行く、あるいは病気などで外出できない人の日常の買い物の手伝いなど、色々思いつくことがあるでしょう。私たちが他者に仕えるとき、それは偉大なこと、あるいは、注目を浴びるようなことである必要はありません。その目的は、イエス様のただ仕えるという姿勢に倣うものであり、それによって、私たちと同じように他者も神様の御愛に満たされるのです。彼らがイエス様を見出すよう祈りましょう。

讃美歌 390

祈り 主よ、私たちの目を開いて、目の前に置かれた仕える機会に気付かせてください。あなた様にご栄光を帰すことができるよう私たちを用いてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ローズマリー・マックナイト
テネシー州 ヘンダーソン

5月15日(日)

真の平和

聖書朗読 ヨハネ 14:27~31

わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしはあなたがたに私の平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなた方は心を騒がせてはなりません。恐れてはなりません。 ヨハネ 14:27

激しい川の流れに自分の身が捕らわれた状況を想像してみてください。身体はうねる川の水にもまれ、急な滝の淵の方へと引き寄せられていきます。全身の力を振り絞りどんなにもがいても川岸まで泳ぎ着くことが出来ません。それどころか、迫りくる滝の方へと勢いよく押し流されていきます。木の切れ端が近くに浮いていますが、それも同じ悲惨な結末へと向かっているのです、しがみついても助からないと分かっています。そのようなとき唯一の助けとなるのは、川の外側の岸に根をおろした何かにしがみつくことでしょう。

あなたの周りに浮いている枝にしがみつこうとしてはなりません。それは真の平安と安全をもたらすものではないからです。真の平安と安全を私たちに与えてくださるのは、イエス様だけです。

イエス様は真の平安をお与えになることが出来ます。それは、イエス様が天の御国で父の右に座しておられ、私たちが断崖絶壁の淵を超えて落とそうと脅すこの世の荒波にもまれている時でさえ、しっかりと私たちを支えることがお出来になるからです。イエス様は私たちを岸辺に寄せてくださり、永遠に、揺るがない地にご自身とともにおらせてくださるのです。

讃美歌 489

祈り 平和の君。私たちがこの世の荒波にもまれるとき、あなた様がお与えくださる真の平安にすがらせてください。私たちをしっかりと支え、無事天の岸へたどり着くことが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

シル・ボーン
コロラド州 ロングモント